

授業計画(シラバス)

科目名	人間の尊厳と自立				指導担当者名		小山田 米子	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり						実務経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		介護福祉学科 1年		
授業方法	講義:○		演習:		実習:		実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間			
学習到達目標	・「人間」の多角的理解(自己理解、他者理解)についてを説明できる。 ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支えることができる。 ・介護場面における倫理的課題について対応できる基礎となる能力を身に着け実践できる。 ・老い、病、障害などにより生活の支障を生じている人々への生活支援を行う際の尊厳の保持と自立の基本を講義する。 ・福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理的な知識を養う。 ・事例を通して介護における尊厳の保持と自立支援の方法について演習を通してその方法を明らかにする。							
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)							
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解(中央法規)							
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。							
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	人間の尊厳と利用者主体			1. 人間を理解すること 2. 人間の尊厳という理念 3. 人間の尊厳と利用者主体			
	2	人権思想の潮流とその具現化			1. 人権思想の潮流 2. 人権思想の具現化 3. 基本的人権・自由権と生存権			
	3	人権や尊厳に関する日本の諸規定			1. 幸福追求権(日本国憲法第13条と公共の福祉 2. 生存権(日本国憲法第25条) 3. 社会福祉法・介護保険法・障害者総合支援法			
	4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅰ			1. エリザベス救貧法・新救貧法 2. 貧困と社会福祉援助 3. 戦争と優勢思想			
	5	社会福祉領域での・人権・福祉理念の変遷Ⅱ			1. 世界人権宣言 2. 貧困と様々な社会福祉援助			
	6	社会福祉領域での・人権・福祉理念の変遷Ⅲ			1. ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン 2. QOL 3. 生命倫理			
	7	人権尊重と権利擁護Ⅰ			1. 1人の人間としての利用者の権利 2. 利用者の権利侵害が起こる状況			
	8	人権尊重と権利擁護Ⅱ			1. 権利侵害の背景 2. 権利擁護の視点 3. エンパワメント			
	9	自立の概念の多様性			1. いろいろな視点からみた自立 2. 画一的ではない自立 3. ライフサイクルからみた自立			
	10	自立とは			1. 自立をするのはだれか 2. 自己選択・自己決定 3. 自律・精神的自立			
	11	介護を必要とする人々の自立と自立支援			1. 介護を必要とする人々の自立 2. 工夫的自立への支援 3. 自立への意欲と動機づけ			
	12	介護における自立支援について学ぶ			1. 自立支援の考え方(残存機能) 2. 自立と依存と選択 3. 自立支援とICF			
	13	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性			1. 人格 2. 尊厳を損なう介護とは 3. 尊厳を守るための介護とは			
	14	介護における自立支援の実践			1. 尊厳を守る介護の中心にある自立支援 2. 利用者の主体性を大切にしたい声かけ 3. 利用者の自立支援			
	15	まとめ			まとめ			
	16							
履修上の留意点								
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。								

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ	指導担当者名	小山田 米子
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり		実務経験：有
開講時期	前期	対象学科学年	介護福祉学科 1年
授業方法	講義：○	演習：	実習：実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間 週時間数 2時間
学習到達目標	利用者・家族との支援関係の構築やチームケアを実践するために介護におけるコミュニケーションの意義や技法を学び、介護場面におけるコミュニケーション能力を養う。 1. 対人援助関係におけるコミュニケーションの基本と、利用者の状況に応じたコミュニケーション技術を学ぶ。 2. 利用者を支える家族とのコミュニケーションに際しての介護者のあり方を理解する。 3. 利用者やその家族とのかかわりにおいて大切な8つのコミュニケーション技法について学ぶ。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C、・59～0点…D（不合格）		
使用教材	最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規）、 ケア・コミュニケーション（ウイネット）		
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。		
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	介護を必要とする人とのコミュニケーション	1. 介護におけるコミュニケーションの意義と目的 2. 介護におけるコミュニケーションの展開過程
	2	介護におけるコミュニケーションの対象	1. コミュニケーションの果たす役割 2. 介護福祉職の職務とコミュニケーション 3. 介護福祉職のコミュニケーション支援の対象
	3	援助関係とコミュニケーション	1. 援助関係（ラポール）の特徴 2. 援助関係を構築するための原則 3. 介護における援助関係を意識したコミュニケーション
	4	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際	1. 傾聴（「聞く」と「聴く」） 2. 受容 3. 共感
	5	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際	1. 言語コミュニケーション 2. 非言語コミュニケーション、準言語コミュニケーション
	6	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際	1. 動機づけ 2. ものの見方に変化を生み出す技術（リフレーミング） 3. 意思決定を支援するためのコミュニケーション
	7	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際	1. マズローの欲求階層説 2. 集団の定義と種類 3. 自然な集団と意図的な集団
	8	家族とのコミュニケーション	1. 家族の存在の重要性 2. 家族の気持ちの理解 3. 家族の意向表出の支援
	9	家族とのコミュニケーション	1. 家族を支援する視点 2. 意向と自立支援の関係 3. 利用者と家族の意向が対立する場合の対応
	10	家族とのコミュニケーション	1. 家族関係の介護への影響 2. 家族が持つ介護ストレス 3. 介護ストレスに対応したコミュニケーション
	11	チームのコミュニケーションとは	1. チームにおけるコミュニケーションの意義・目的 2. 多職種協働チームのコミュニケーション 3. 介護の実践場面におけるチームのコミュニケーション
	12	チームのコミュニケーションの実際	1. 会議の意義と目的 2. 会議の議事進行 3. プレゼンテーション
	13	チームのコミュニケーションの実際	1. 事例検討を行う意義・目的 2. 事例検討会場面の流れ 3. 事例検討会での注意点
	14	チームのコミュニケーションの実際	1. 事例検討を行う意義・目的 2. 事例検討会場面の流れ 3. 事例検討会での注意点
	15	まとめ	1、まとめ
	16		
履修上の留意点			
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ				指導担当者名		小山田 米子	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり						実務経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		介護福祉学科 1年		
授業方法	講義:○		演習:○		実習:		実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間			
学習到達目標	コミュニケーション障害の状態や原因について理解し、利用者の特性に応じたコミュニケーション能力を身につける。チームマネジメントの基本的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習をする。 1. 利用者の抱えるコミュニケーション障害の状態や、原因について理解する。 2. 利用者やその家族、他職種とのチームのコミュニケーション能力を身につける。 3. チーム内における円滑なコミュニケーションや、介護の質を高めるために必要な記録、報告、会議等の重要性を理解する。							
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)							
使用教材	最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術(中央法規) ケア・コミュニケーション(ウイネット)							
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。							
学期	ターム	項 目			内 容・準備資料等			
授業計画 後期	1	コミュニケーション障害への対応の基本			1. コミュニケーション障害とは 2. コミュニケーション障害の原因 3. コミュニケーション支援の基本			
	2	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際			1. 視覚障害の特徴 2. 基本的なコミュニケーション支援 3. コミュニケーション支援のツール			
	3	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際			1. 聴覚障害の特徴 2. 基本的対応 3. コミュニケーション支援のツール			
	4	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際			1. 構音障害の特徴 2. 基本的対応 3. コミュニケーション支援のツール			
	5	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際			1. 失語症の特徴とコミュニケーションの実際 2. 基本的対応 3. 心理的問題への配慮			
	6	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際			1. 認知症の特徴 2. 基本的対応 3. 進捗度合いに応じたコミュニケーション技術			
	7	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際			1. 精神障害のある人とのコミュニケーション 2. うつ病・抑うつ状態の特徴と基本的対応 3. 統合失調症の特徴と基本的対応			
	8	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際			1. 知的・発達障害の人へのコミュニケーション 2. 知的・発達障がいの特徴と基本的対応			
	9	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際			1. 様々な方の障害の特性に応じたコミュニケーションの実際			
	10	チームコミュニケーションの意義			1. 報告・連絡・相談の意義 2. 報告・連絡・相談の技術 3. 報告・連絡・相談を促進する環境づくり			
	11	チームコミュニケーションの実際			1. 記録の意義 2. 記録の目的 3. 記録の種類			
	12	チームコミュニケーションの実際			1. 記録の方法と書き方			
	13	チームコミュニケーションの実際			1. 記録の方法と書き方 2. 記録の実際(介護記録、チェック表、家族との連絡記録、ヒヤリハット・事故報告記録等)			
	14	チームコミュニケーションの実際			1. 介護実践における情報活用の重要性 2. ICTの活用 3. 個人情報の保護と活用			
	15	まとめ			1.まとめ			
	16							
履修上の留意点								
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。								

授業計画(シラバス)

科目名	介護課程Ⅱ				指導担当者名	大久保悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		介護福祉学科科 1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	介護を必要とする人の望む生活の実現に向けた介護過程の展開により、根拠に基づく介護実践を考えることができる 1. 個別ケア提供における介護計画の意義や立案方法について理解する 2. 介護過程における実施や記録の意義及び留意点について理解する 3. 介護過程における評価の意義や個別ケアにおける評価の重要性を理解する						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程(中央法規)						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	介護計画の基礎的理解			1. 介護計画とは ・ケアプランと介護計画の関係性 2. 介護計画に含まれる要素と留意点		
	2	介護計画の基礎的理解			1. 介護目標の設定 ・長期目標と短期目標、目標の優先順位 ・介護内容の決定		
	3	アセスメント及び介護計画のまとめ			1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・ICFを活用した情報収集		
	4	アセスメント及び介護計画のまとめ			1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・情報の解釈・関連づけ・統合化(情報の分析)		
	5	アセスメント及び介護計画のまとめ			1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・情報の解釈・関連づけ・統合化(情報の分析) ・課題及びニーズの明確化		
	6	アセスメント及び介護計画のまとめ			1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・介護計画の立案		
	7	アセスメント及び介護計画のまとめ			1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・介護計画の立案		
	8	ケアカンファレンスの基礎的理解			1. ケアカンファレンスの意義・目的・方法		
	9	ケアカンファレンスの基礎的理解			1. ケアカンファレンス ・作成した介護計画を用いたカンファレンスの実践		
	10	介護の実施の基礎的理解			1. 介護の実施とは 2. 実施における留意点		
	11	介護の実施の基礎的理解			1. 実施記録の意義・目的・要素 2. 情報を扱う際の留意事項 3. 記録を書くときの留意事項		
	12	介護の実施の基礎的理解			1. 実施記録の適切な書き方について理解する		
	13	介護過程の評価の基礎的理解			1. 評価の意義と目的 2. 評価の内容と方法		
	14	介護過程の評価の基礎的理解			1. 事例を用いた評価表の作成、考察		
	15	まとめ			1. 介護過程プロセスのまとめ		
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅰ				指導担当者名	大久保 悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		介護福祉学科 1年	
授業方法	講義:		演習:○		実習:		実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	介護実習に向けての準備や心構え、実習施設について理解し、他科目での学びと介護実習との関連性が理解できる 1. 「実習Ⅰ」と「実習Ⅱ」の枠組みについて理解する。 2. 実習の目的や意義について理解する。 3. 実習先・施設の体系、種類について理解する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（中央法規）						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	介護総合演習の位置づけ 介護総合演習の目的			1. 介護福祉士養成教育の全体像 2. 「介護総合演習」と「介護実習指導」 3. 介護総合演習の五つの目的を理解する		
	2	介護実習の意義と目的 介護実習の種類			1. 介護実習の必要性と流れ 2. 実習Ⅰ、実習Ⅱの目的と主な内容 3. 実習Ⅰの場の利用者を取り巻く人や地域社会との関係を理解する		
	3	介護実習前の学習の内容と方法			1. 介護実習前の学習の意義と目的 2. 介護実習と各領域の学習との関係		
	4	実習Ⅰ－①に関する基礎知識			1. 通所介護のサービス内容や利用者像の理解 2. 通所介護の利用者像の理解(身体状況、ADLなど)		
	5	実習Ⅰ－①に関する基礎知識			1. 制度から通所介護について理解する(介護保険法、厚生労働省令)		
	6	実習Ⅰ－①に関する基礎知識			1. 他科目での学びを踏まえた実習目標の設定		
	7	実習Ⅰ－①に関する基礎知識			1. 実習生としてのマナー ・個人情報の取り扱い ・身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、電話のかけ方		
	8	実習Ⅰ－①に関する基礎知識			1. 実習記録や日誌のまとめ方 ・他科目で学んだ専門用語の確認、適切な文書表現 ・ロールプレイを通して実習に必要な記録の書き方を学ぶ		
	9	実習Ⅰ－①に関する基礎知識			1. 実習Ⅰ－①実習指導者による実習前オリエンテーション		
	10	実習Ⅰ－①に関する基礎知識			1. 実習計画の作成		
	11	実習Ⅰ－①直前の学習			1. 実習目標、実習計画の確認 2. 実習記録の配布 3. 実習記録作成の留意点		
	12	実習Ⅰ－①事後学習			1. お礼状作成 2. 実習後の振り返り		
	13	実習Ⅰ－①事後学習			1. 実習報告会に向けた準備		
	14	実習Ⅰ－①事後学習			1. 実習報告会に向けた準備		
	15	実習Ⅰ－①まとめ			1. 実習報告会を通じた学びの共有		
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅱ				指導担当者名	大久保悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		介護福祉学科 1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	利用者の状況や施設種別に応じた介護実習に取り組み、介護を学ぶ学生として求められる態度を身につける 1. 事前学習の意義と目的を理解する 2. 実習を通して利用者の生活を観察することが出来る 3. 実習において対人関係を意識したコミュニケーションをとることが出来る 4. 実習終了後のまとめ学習について理解する						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習(中央法規)						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	実習Ⅰ－②に関する基礎知識			1. 施設サービスの理解と援助の視点		
	2	実習Ⅰ－②に関する基礎知識			1. 介護福祉士に必要な介護過程の視点について学ぶ		
	3	実習Ⅰ－②に関する基礎知識			1. 介護福祉士に必要なコミュニケーション技術について確認する ・プロセスレコード演習		
	4	実習Ⅰ－②に関する基礎知識			1. 実習記録や日誌のまとめ方 ・介護福祉士に必要な記録について学ぶ		
	5	実習Ⅰ－②に関する基礎知識			1. 実習記録や日誌のまとめ方 ・ロールプレイを通して記録の書き方を学ぶ		
	6	実習Ⅰ－②に関する基礎知識			1. 実習計画の作成		
	7	実習Ⅰ－②直前の学習			1. 実習目標、実習計画の確認 2. 実習課題の確認 3. 実習記録の配布及び作成の留意点		
	8	実習Ⅰ－②事後学習			1. 実習後の記録、課題の提出等確認 2. お礼状の作成 3. 実習の振り返り		
	9	実習Ⅰ－②事後学習			1. プロセスレコードから、コミュニケーション場面を振り返る 2. 相手の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを考える		
	10	実習Ⅰ－②事後学習			1. 実習報告会の準備		
	11	実習Ⅰ－②まとめ			1. 実習報告会を通じた学びの共有		
	12	実習Ⅰ－②まとめ			1. 実習報告会を通じた学びの共有		
	13	実習Ⅰ－③に関する基礎知識			1. 訪問介護サービスの理解 2. 実習目標の検討 3. 実習書類の作成		
	14	実習Ⅰ－③に関する基礎知識			1. 訪問時のマナー ・入室、退室の仕方、掃除の仕方 ・お茶の入れ方		
	15	まとめ			1. 後期及び1年次のまとめ		
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	生活環境学			指導担当者名		三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	生活者の視点に立ち、障がいや疾患を持つ人が安心して生活できる住環境の整備とサポートをするために、関連職種と連携して利用者のコーディネートができるよう専門的知識を身に付ける。 1. 建築・医療・福祉関連職等、多職種協働で住宅改修をする根拠が説明できる 2. 建築・医療・福祉について体系的幅広い知識を身に付け各種専門職と連携を図り適切な用具等が説明できる 3. 福祉用具、諸施策情報を本人、家族に説明ができる 4. 福祉住環境コーディネーター3級を修得できる能力を身に付ける						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト（東京商工会議所）						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	暮らしやすい生活環境を目指してⅠ		少子高齢社会と共生社会への道			
	2	暮らしやすい生活環境を目指してⅡ		福祉住環境整備の重要性と必要性			
	3	暮らしやすい生活環境を目指してⅢ		在宅生活の維持とケアサービス			
	4	健康と自立を目指してⅠ		高齢者の健康と自立			
	5	健康と自立を目指してⅡ		障害者が生活する不自由を克服する道			
	6	バリアフリーとユニバーサルデザイン序論		バリアフリー・ユニバーサルデザインを考える			
	7	バリアフリーとユニバーサルデザイン		生活を支える様々な用具を知る			
	8	福祉住環境コーディネーターの意義Ⅰ		福祉住環境コーディネーター検定試験対策・模擬テストを通して意義・活躍の場を知る①			
	9	福祉住環境コーディネーターの意義Ⅱ		福祉住環境コーディネーター検定試験対策・模擬テストを通して意義・活躍の場を知る②			
	10	福祉住環境コーディネーターの意義Ⅲ		福祉住環境コーディネーター検定試験対策・模擬テストを通して意義・活躍の場を知る③			
	11	安全・安心・快適な住まいⅠ		住まいの整備のための基本技術			
	12	安全・安心・快適な住まいⅡ		生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい①			
	13	安全・安心・快適な住まいⅢ		生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい②			
	14	安心できる住生活とまちづくりⅠ		ライフスタイルの多様化と住まい、安心できる住生活			
	15	安心できる住生活とまちづくりⅡ		安心して暮らせるまちづくり、まとめ			
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅲ				指導担当者名	大久保 悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:		演習:○		実習:		実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	学外実習において、利用者の自立支援や人としての尊厳を支える介護過程の展開が適切にできるようにする。 1. 介護実習Ⅱのねらい・目的・目標を理解する。 2. 授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための取り組みができる。 3. 担当ケースのアセスメントから利用者の生活課題を明らかにし、介護計画の立案・実施・評価ができる。 4. 事例研究を意識した実習の進め方の理解、考察を行い、事例研究をまとめることができる。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習(中央法規)						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	実習Ⅱ－②に向けた事前学習			1. 実習Ⅱのねらいを理解する 2. 実習Ⅱのモデルを具体的にイメージし、理解を深める 3. 実習Ⅱ－②目標の検討		
	2	実習Ⅱ－②に向けた事前学習			1. 演習を通して実際に担当することを想定した介護過程を展開する		
	3	実習Ⅱ－②に向けた事前学習			1. 事例を用い、模擬カンファレンスを実施する		
	4	実習Ⅱ－②に向けた事前学習			1. 実習計画の作成		
	5	実習Ⅱ－②に向けた事前学習			1. 実習記録の配布□ 2. 実習課題の確認		
	6	実習Ⅱ－②実習中の学習			1. 実習の取り組み、課題について確認する		
	7	実習Ⅱ－②実習中の学習			1. 実習の取り組み、課題について確認する		
	8	実習Ⅱ－②事後学習			1. お礼状作成□ 2. 実習後の振り返り		
	9	事例研究			1. 事例研究とは□ 2. 事例研究の進め方		
	10	事例研究			1. 事例研究を通して実習Ⅱ－②について振り返る		
	11	事例研究			1. 事例研究を通して実習Ⅱ－②について振り返る		
	12	事例研究			1. 事例研究を通して実習Ⅱ－②について振り返る		
	13	事例研究			1. 事例研究を通して実習Ⅱ－②について振り返る		
	14	介護実習Ⅱ－①事前学習			1. 実習Ⅱ－①実習内容確認□ 2. 実習Ⅱ－①目標の検討		
	15	まとめ			1. 前期実習のまとめ		
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅳ				指導担当者名	大久保 悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:		演習:○		実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	介護実習において各自の課題を整理し、目標をまとめる。また実習での様々な場面に対応する能力を養い、終了後に報告書を作成し、介護実習と教科学習のまとめをおこなう。 1. 多様な介護現場で活躍できる介護福祉士として、必要なマナー、知識、理論等を統合、応用し実習に取り組む。 2. 担当ケースのアセスメント・介護計画の立案・実施・評価ができる。 3. 事例研究についてまとめ発表する。 4. 実習の振り返りを通して自身の介護観を育て、専門職としての技術・知識を高める必要性を理解する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習(中央法規)						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	実習Ⅱ－①事前学習			1. 実習Ⅱ－①目標再確認□ 2. 実習記録や日誌のまとめ方(記録の添削を通して記録の書き方の確認)		
	2	実習Ⅱ－①事前学習			1. 実習記録の配布□ 2. 実習課題の確認		
	3	事例研究			1. 校内研究発表		
	4	事例研究			1. 校内研究発表		
	5	実習Ⅱ－①実習中の学習			1. 実習の取り組み、課題について確認する		
	6	実習Ⅱ－①事後学習			1. 多職種との連携について振り返る		
	7	実習Ⅱ－①事後学習			1. 実習報告会に向けて、実習の取り組みについて振り返る		
	8	実習Ⅱ－①報告会			1. 実習報告会		
	9	実習Ⅱ－①報告会			1. 実習報告会		
	10	総合的な演習の展開			1. 事例を用いた総合的な演習の展開		
	11	総合的な演習の展開			1. 事例を用いた総合的な演習の展開		
	12	総合的な演習の展開			1. 事例を用いた総合的な演習の展開		
	13	総合的な演習の展開			1. 事例を用いた総合的な演習の展開		
	14	総合的な演習の展開			1. 事例を用いた総合的な演習の展開		
	15	まとめ			1. 後期及び2年間のまとめ		
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケア I				指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○		演習:○		実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	介護福祉士が、安全で適切にたんの吸引・経管栄養を行うために必要な基礎を身につける。 1. 医行為に関する法律、倫理、医療従事者との連携について理解する。 2. 安全な療養生活の提供方法について理解する。 3. 清潔保持と感染予防について理解することで、自己の健康管理や感染予防ができる。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	医療的ケア			1. 医療的ケアとは 2. 医療提供体制の変遷 3. 社会福祉士及び介護福祉士法の改正		
	2	人間と社会			1. 個人の尊厳と自立 2. 医療の倫理 3. 利用者や家族の気持ちの理解		
	3	保健医療制度とチーム医療			1. 保健医療に関する制度 2. チーム医療と介護職員との連携		
	4	安全な療養生活(1)			1. リスクマネジメント、ヒヤリハット 2. 痰の吸引における安全な実施		
	5	安全な療養生活(2)			1. リスクマネジメント、ヒヤリハット 2. 経管栄養における安全な実施		
	6	安全な療養生活(3)			1. 救急蘇生法		
	7	安全な療養生活(4)			1. 救急蘇生法		
	8	清潔保持と感染予防(1)			1. 感染予防 2. 職員の感染予防		
	9	清潔保持と感染予防(2)			1. 療養環境の清潔、消毒法 2. 滅菌と消毒		
	10	健康状態の把握(1)			1. 健康状態の把握 2. バイタルサイン		
	11	健康状態の把握(2)			1. 身体・精神の健康 2. 急変状態について		
	12	健康状態の把握(3)			1. 高齢者によくみられる身体症状の特徴 ～脱水、浮腫、痒み、痛み、発熱、嘔吐、倦怠感～		
	13	医療的生活支援(1)			1. 創傷の処置とガーゼ交換 2. 服薬に関する支援 3. 清潔に関する支援(爪切り、口腔ケア、耳垢の除去)		
	14	医療的生活支援(2)			1. 排泄に関する支援 ・パウチにたまった排泄物の除去 ・自己導尿		
	15	補足及びまとめ			授業の補足及びまとめ		
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅡ				指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○		演習:○		実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	介護福祉士が、安全で適切に痰の吸引を行うために必要な基礎を身につける。 1. 医行為に関する法律・倫理・医療従事者との連携について理解する。 2. 安全で適切なたんの吸引の方法・留意点について理解する。 3. 安全で適切なたんの吸引の技法を身につける。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア(中央法規)						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論			1. 呼吸のしくみとはたらき2. いつもと違う呼吸状態		
	2	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論			1. たんの吸引とは2. 人工呼吸器と吸引		
	3	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論			1. こどものたんの吸引2. 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意。		
	4	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論			1. 呼吸器の感染と予防(吸引に関連して)2. たんの吸引により生じる危険、事後の安全確保		
	5	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論			1. 急変・事故発生時の対応と事前対策		
	6	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順			1. たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持2. たんの吸引に伴うケア		
	7	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順			1. 吸引の技術と留意点		
	8	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順			1. 吸引の技術と留意点2. 報告及び記録		
	9	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順			1. 吸引の技術と留意点2. 報告及び記録		
	10	たんの吸引(口腔内)			1. 口腔内吸引		
	11	たんの吸引(口腔内)			1. 口腔内吸引		
	12	たんの吸引(鼻腔内)			1. 鼻腔内吸引		
	13	たんの吸引(鼻腔内)			1. 鼻腔内吸引		
	14	たんの吸引(気管カニューレ内)			1. 気管カニューレ内吸引		
	15	たんの吸引(気管カニューレ内)			1. 気管カニューレ内吸引		
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅢ				指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり					実務経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○		演習:○		実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	介護福祉士が、安全で適切に経管栄養を行うために必要な技法を身につける。 1. 安全で適切な経管栄養の方法・留意点について理解する。 2. 安全で適切な経管栄養の技法を身につける。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア(中央法規)						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論			1. 消化器系のしくみとはたらき		
	2	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論			1. 消化・吸収とよくある消化器の症状		
	3	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論			1. 経管栄養法とは 2. 注入する内容に関する知識		
	4	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論			1. 経管栄養実施上の留意点 2. こどもの経管栄養について		
	5	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論			1. 経管栄養に関する感染と予防 2. 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意		
	6	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論			1. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 2. 急変・事故発生時の対応と事前対策		
	7	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順			1. 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2. 経管栄養に必要なケア		
	8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順			1. 経管栄養の技術と留意点		
	9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順			1. 経管栄養の技術と留意点		
	10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順			1. 経管栄養の技術と留意点2. 報告及び記録		
	11	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順			1. 経管栄養の技術と留意点2. 報告及び記録		
	12	経管栄養(胃ろう)			1. 胃ろうの経管栄養		
	13	経管栄養(胃ろう)			1. 胃ろうの経管栄養		
	14	経管栄養(経鼻)			1. 経鼻経管栄養		
	15	経管栄養(経鼻)			1. 経鼻経管栄養		
	16						
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							